

第1学年4組国語科学習指導案

日時 平成27年10月28日(水)

場所 1年4組教室

生徒 男子12名 女子19名 計31名

指導者 今井 美和

1、単元名 話題をとらえて話し合おう(バズセッションをする)

2、目標

(1) 課題について自分の意見を持ち、互いの考えを整理しながら、建設的に話し合おうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

(2) 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめることができる。

(話すこと・聞くこと)

(3) 必要に応じて質問しながら聞きとり、自分の考えとの共通点や相違点を整理することができる。

(話すこと・聞くこと)

(4) 相手の話の中に出てくる語句について関心を持ち、意味を確かめながら聞いたり、指示語や接続語などを適切に使い、話すことができる。

(伝統的な言語についての知識・理解・技能)

3、題材について

本題材は、中学校での討論、話し合いの学習の導入にあたる単元であり、2年生の「話し合って考えを広げよう(パネルディスカッションをする)」、3年生の「課題解決に向けて話し合おう(社会への提案をまとめる)」へとつながるものである。バズセッションとは、4～6人のグループで時間を決めて話し合い、意見をまとめて全体に報告する方法のことである。話の方向性をとらえて自分の考えを述べる能力や、周りの人の発言を注意して聞く姿勢を身に付けることをねらいとし、討論の基本的な態度や技能を養うとともに、話し合う楽しさを実感できるように構成されている。この時期に民主的・協力的に話し合う活動を経験することは、社会生活で生きて働く言語能力を身につける大切な段階であると考え。また、国語科における話し合いは、拡散的な話し合いが多い。しかし、あえて拡散的な話し合いではなく、全員が考えを交流し、合意を求めていく収束的な話し合いをさせることで、建設的な話し合いの技能を身につけさせ、他教科の授業や学級活動をはじめ、実生活の場でいかすことができるようになると考え。これからの社会は、一人一人が正解のない課題に対して、自分なりの最善策を見だし、行動していくことが求められる。そのために、根拠をもとに自分の考えを持ち、的確に伝える力や、さまざまな考えを客観的に判断する力を身につけさせることは大切なことであると考え。

4、生徒について

《生徒事前アンケートより(29名回答)》

1、話し合い活動は好きですか。(はい 23名 いいえ 6名)

2、その理由を書きなさい。

はいと答えた理由

- ・自分にはない、みんなの考えが聞けるから。
- ・自分の考えを自由に出せるから。・みんなと協力できるから。
- ・いろいろな話ができて、楽しいから。

いいえと答えた理由

- ・間違っただけを話すのが恥ずかしいから。
- ・言葉が変だから。・うまく自分の思いが伝えられないから。
- ・ふざける人がいるから。・余計な話をしている人がいるから。
- ・話に入れない人がいるから。・めんどくさいから。

3、話し合いにおいて自分の課題だと思うことを挙げなさい。

- ・自分の意見をはっきり伝えること。・恥ずかしがらずに積極的に自分の意見を言うこと。
- ・説明が下手なこと。・うまく言い表せないこと。・感心してばかりいること。
- ・友達の見解に頼り合ってしまうこと。・みんなの見解を参考にすること。・まとめること。
- ・しっかり人の話を聞く。・不快な気持ちにさせない。
- ・一つの意見からもっと深く考えてさらに意見を述べること。

4、どんな話し合いがいい話し合いだと思いますか。

- ・みんなでしっかり考えられる。　・一人一人が意見をはっきり伝えられる。
- ・反対意見も言える。　・意見が活発に出る。　・みんなで1つの課題について話を進める。
- ・たくさん意見を出して、それについてみんなでまた意見を言い合える。
- ・人の話をしっかり聞く。　・人の意見を尊重できる。　・不安にさせない。　・楽しい。
- ・「〇〇ちゃんはどう思う？」など言いながら進める。　・話が通じ合っておもしろい。

5、どんな話し合いが良くないと思いますか？

- ・ふざけている。　・否定する。　・人を馬鹿にする。　・話している途中で文句を言う。
- ・人の話を聞かずに勝手にバンバン話す。　・決まった人だけが1人で全部しゃべる。
- ・好き勝手なことばかり言う。　・関係ない話をする。　・話題や視点がずれる。
- ・誰も意見を出さない。　・話し合いに参加せず自分の世界に入る。　・ダラダラする。
- ・うまく言えなかった時にフォローがない。

本学級は、積極的に自分の意見を述べようとする生徒が多い。1学期は、特に「みんなに話すこと・1対1で聞きあうこと」に重きを置き、「友達をみんなに紹介しよう」というスピーチと対話を取り入れた学習に意欲的に取り組んだ。2学期は「話し合うこと」「聞くこと」に重きを置いた学習としてバズセッションを行う。

話し合うことについては、小学校から継続して指導されてきており、さまざまな授業で取り入れられてきた。そのため、進め方には慣れており、話し合うことが好きだという生徒も多い。しかし、話し合いが形骸化し、ひと通り終わるとただの「おしゃべり」になってしまったり、一部の人に発言が偏り、一方的な話し合いになったりしている感も否めない。そういった点については、生徒たち自身が不満に思っており、アンケートにおいても「よくない話し合い」として挙げている。話し好きが多いのは良いが、人の話を聞かず、自分の考えをただ主張するだけでは、どこまで行っても平行線である。全員が話し合いに参加するためには、根拠や理由を示しながら自分の考えを主張する力や、相手の話をよく聞いて話題や方向性をとらえる力、共通点や相違点を整理しながら建設的に話し合う力が必要である。

実際、本単元に入る前に「流れを踏まえて話し合おう」という教科書教材を使って、普段通りの話し合いをさせてみたところ、自分の意見をうまく言えない、話し合いの内容や他の班の報告を聞いていない、話題がそれるなどして、全く話し合いが成立しなかった。生徒たちは身をもって話し合う力のなさを痛感したのである。そのことにより、本単元の学習において話し合う力を身につけたい、向上させたいという意識が高まり、学ぶことの必要性を感じながら学習に取り組めるものと考え。互いの立場を了解し、合意形成や意思決定に至るまで、その根拠や理由が正しいのか間違っているのか、適しているのか適していないのか、とことん話し合わせることで、論理的に考える力を高めていきたいと考える。

5、指導について

研究テーマ 「言葉に込められた意図や思いにこだわりを持ち、考えを伝えあう指導の工夫」
～つけたい力を明確にした“単元を貫く言語活動”を通して～

この単元で身につけさせたい力は「話し合う力」である。話し合いには、話す力も必要であるが、生徒の実態を考えたとき、それ以上に聞く力が必要であると考え。小学校学習指導要領の高学年では「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること（話し合うこと）」、「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること（聞くこと）」を指導事項として挙げている。それらを踏まえ、中学1年生として身につけるべき力は、「話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめること（話し合うこと）」、「必要に応じて質問しながら聞きとり、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること（聞くこと）」である。これまでの自分達の話し合いにおける課題を意識させながら、全員参加の建設的な話し合いをさせるために、以下の点に留意して指導する。

I 単元を貫く言語活動の設定

単元を貫く言語活動として、「全員参加の話し合い～四中のいいところを紹介するポスターNo.1を決定しよう～」を設定する。新入生に四中のいいところを紹介するために、①6枚から3枚の写真を選ぶ、②選んだ写真とともにポスターに入れる言葉を選ぶ、③各班でポスターにした6つの作品から最も良いものを選ぶという、グループでの合意を目指したバズセッションである。互いのものの見方や考え方のよさを認め合い、検討しながら目標に向かって建設的に話し合う力を身につけさせたい。バズセッションをする際は、本単元で学び身に

つけたことが、より実生活に生きるよう、日常の生活班（5人）で行う。これまでの自分たちの「話し合い」を振り返り、課題意識を明確に持たせて「いい話し合い＝全員参加の話し合い」を目指す。相手意識、目的意識を明確にもたせ、実際の話し合う場面を想定して行うことで、実生活に生きてはたらく言語力の育成を図りたい。また、自分たちの話し合いのどういう点がうまくいった（いかなかった）のか、それはなぜかを振り返り、評価する場面を設定することで思考を深め、ねらいに迫っていききたい。

II 考えを伝えあう指導の工夫 ～思考ツール・ファシリテーションツールの工夫～

全員が話し合いに参加するためには、1人1人に自分の考えとその根拠・理由をもたせることが大前提である。今回の話し合いには正解・不正解がないうえ、「新入生に四中のいいところを伝えたい」という思いから、1人1人が自分の意見を持ちやすいと考える。さらに、生徒の事前アンケートを受けて、①学年行事鍋合戦の写真②授業中の写真③あいさつ運動の写真④観桜会の写真⑤体育祭での応援の写真⑥部活動の写真を用意した。生徒が自分の経験と関連づけて、新入生が楽しみにしていたり、不安に思っていたりすることを、類推して考えることができる。写真の中の情報を根拠に、そこからふさわしいと思う理由を考えたり、その写真にふさわしい言葉を考えたりするところに、1人1人の思いやこだわりが生まれる。話し合いの中で、その思いやこだわりについて、必要に応じて質問し、相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりすることを意識させたい。そのために、付箋紙の活用や、思考ツール・ファシリテーションツールを工夫する。話し合いを可視化することで、写真や言葉を選んだ根拠と理由について考えを整理し、自信をもって話し合いに参加させるとともに、他の人の考えとの共通点や相違点についても整理し、話題や方向をとらえて話し合いができるようにさせたい。

6、指導計画（6時間）

	学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの話し合いから課題を見つける。 つきたい力を確認し学習の見通しを持つ。 バズセッションについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題意識を持ち、積極的に全員参加の良い話し合いをしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
2	<ul style="list-style-type: none"> 6枚の写真进行分析して3枚を選ぶ。 自分の考え、根拠と理由を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの写真について「気づいたこと」「新入生に伝えられること」を思考シートに積極的に書きこんでいる。 (国語への関心・意欲・態度) 根拠と理由を明確にして自分の考えをまとめて書くことができる。 (書くこと)
3	<ul style="list-style-type: none"> バズセッションを行い、3枚の写真を選ぶ。 バズセッションを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話の中に出てくる言葉の意味を確かめながら聞いたり、適切な言葉で話すことができる。 (伝統的な言語に対する知識・理解・技能) 根拠と理由を明確にして、相手の反応を踏まえながら発言することができる。 (話すこと・聞くこと)
4	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのグループが選んだ3枚の写真からポスターにふさわしい言葉を1人1人考える。 自分の考え、根拠と理由を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3枚の写真にふさわしい言葉から、ポスターに添える言葉のアイデアを考え、積極的に付箋紙に書き出している。 (国語への関心・意欲・態度) 根拠と理由を明確にして自分の考えをまとめて書くことができる。 (書くこと)
5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> バズセッションを行い、写真に添える言葉を決める。 バズセッションを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理することができる。(話すこと・聞くこと) 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして自分たちの考えをまとめることができる。 (話すこと・聞くこと)
6	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの作成したポスターについて、各グループで発表する。 バズセッションを行い、No.1を決める。 今回の単元で、学んだことを自分の言葉でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの作成したポスターについてわかりやすく伝えようとしている。 (国語への関心・意欲・態度) 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして自分たちの考えをまとめることができる。 (話すこと・聞くこと) バズセッションから、話し合いの技能について振り返り、自分の言葉でまとめることができる。(話すこと・聞くこと)

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理することができる。
(話すこと・聞くこと)
- ・話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして自分たちの考えをまとめることができる。
(話すこと・聞くこと)

(2) 指導過程

	学習活動	主な発問 (○) 指示 (□)	予想される反応 (・)	留意点(△) 評価 (◎)
導 入 5 分	1、本時の目標と課題を確認する。	□今日の学習課題を確認しましょう。		△話し合いの目標と流れを掲示しておく。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 全員参加の話し合い ～ポスターに入れる言葉を決めよう～ </div>			
展 開 30 分	2、自分の考えと根拠・理由を確認する。	□私たちが目指す「話し合い」を確認しましょう。 □前時にそれぞれが考えたタイトル案から良いと思うものと、その根拠、理由を確認しましょう。	(*) ・話し合いの目的と話題を共通理解する。 ・発言するときは、はっきりと自分の意見を言い、根拠と理由を示す。 ・聞くときは否定せず、最後まで話を聞いて自分の考えとの共通点・相違点を比較しながら考えをまとめる。	△学習プリントと掲示物で、目指す「話し合い」を確認し、授業の最後に振り返りをすることを予告する。 △話し合いの流れ、まとめ方、報告の仕方を確認する。 △前時にまとめた自分の考え、根拠と理由を学習プリントと付箋紙で確認させる。 △モデルを提示する。
	3、5人グループになってバズセッションを行う。	□では、話し合いを始めます。時間は30分です。画用紙に付箋紙を貼って整理しながらアイデアをまとめていきます。各班で決まった言葉はマグネットシートに書いて黒板に貼ってください。	・画用紙に自分の考え(言葉)を書いた付箋紙を貼って整理していく。 ・「協力・団結の四中」 ・「何事も全力!」 ・「仲良し笑顔あふれる四中」・・・ ・根拠と理由をつけて自分の考えを述べる。 ・話の方向性をとらえて司会や発言をしている。 ・自分の考えとの共通点や相違点を見つけている。 ・適切に質問をし相手の考えを引きだしている。 ・相手の反応を踏まえて、言葉を言いかえたりしている	△机間支援で共通点(同じ・似た意見)相違点(違う意見)の整理の仕方とまとめ方をアドバイスする。 △相手の説明でわからないことは質問して相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするよう促す。 <u>適宜、話し合いの目的や方向性を確認する。</u> △各班のまとめた意見はマグネットシートを使い全体で共有する。 ◎必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理することができたか。(話し合いの様子・ワークシート)
ま と め 15 分	4、話し合いの結果を全体に報告する。 5、本時の学習の振り返りをする。	□各班から話し合いの結果を1～2分で報告して下さい。 □今日の話し合いを振り返りましょう。	・私たちの班では…や～や～という意見が出され○○という言葉になりました。 ・自分の意見を根拠と理由を示しながら発言できたから良かった。 ・話題からそれずに話し合えたのでよかった。 ・共通点と相違点をうまく整理できなかったのでもの次頑張りたい。	・(*)の項目について簡単に(◎・○・△)、班の話し合いについては文章表現で、よかった点と課題となる点を振り返らせる。 ・本時のねらいを意識した振り返りができているものを全体で取り上げ価値づけする。 ◎話し合いの話題や方向性をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして班で考えをまとめることができたか。(話し合いの様子・振り返りシート)

第3学年 国語科学習指導案

平成28年1月15日(金)

指導者 佐藤 陽子

1. 単元 「故郷」を読み、その魅力を伝えよう ～批評文を書く～

2. 目標

- (1) 作品の内容や表現から読み取ったことを踏まえ、人間と社会との関わりについて関心を持ち、自分の考えを深めようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 情景・心情描写に着目して読み、作者の表現の工夫や場面及び登場人物の設定意図を捉えることができる。(読むこと)
- (3) 登場人物と主題との関わり、構成や展開、表現の仕方などに着目して読んだ作品の魅力を、批評文の形で文章にまとめることができる。(書くこと)

3. 単元について

本単元は、学習指導要領国語科第3学年指導事項「C 読むこと」の(1)ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること、(2)エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつことの内容を受けて設定されている。

本単元の学習で身につけさせたい力は、厳しい状況下におかれた人間の姿を読み取り、人間と社会との関わり方の普遍的なあり方について考えを深め、自分の考えをまとめる力である。本単元の中で取り上げる「故郷」は、辛亥革命後の混乱する中国社会の中で困窮する人々を描くことで、作者魯迅が新しい社会の実現を願い、母国中国の近代化に一生を捧げようとした作者自身の生き方・考え方を表している作品である。本作品には、情景の描写によって社会状況や登場人物の心情を暗示したり、人物の外見の描写によって人物の精神の変化や時代状況の変化がとらえたりすることができるように表現が工夫されている。構成においても、効果的に回想場面を挿入して、各場面で思い出の故郷と現実の故郷とを対比させて現実の厳しい状況を浮かび上がらせている。

この作品を学ぶことは、進路実現を控えた中学3年生の生徒にとって、自分自身に目を向けるだけにとどまらず、社会やその状況にも目を向け、人間の生き方を考え、自分の将来について見つめ直し、新たに前進しようとする意欲を持つ上で良いきっかけとなると考える。

4. 生徒について

生徒は、教科書の文章の音読や感想を述べたり、書いたりすることには大変意欲的に取り組んできた。しかしながら、NRTテストの結果では、文章の読解については全国平均を下回っており、教科書の文章を理解するのに時間のかかる生徒が多く、国語が苦手、分からないという思いを持っている生徒も見られる。そのため、生徒の学習状況に応じて、読み取る場面のポイントを提示したり、前後の文脈から内容を読み取らせたりするような手立てを取りながら学習を進めてきた。

また、「何のために読むのか」「読むことで自分の考えが広がる、深まる」ことを意識しながら学習することで、より深い読みや学習意欲の向上につながると考えられる。

5. 指導について

本校では、「自ら学び、自ら考える生徒の育成 ～学びに引き込む課題の設定と学びを導く指導の研究～」を研究主題とし、また、目指す生徒像として「何しったがわかる生徒」「ねっづく学ぶ生徒」を掲げている。さらに、授業づくりのポイントとして、①既習事項の提示（課題のつながり）②補助黒板の活用③付箋の活用 について全体で共有化を図り、「宮中スタイル」の確立を目指した授業づくりに取り組んでいる。

そこで、以下の手立てを取りながら指導にあたる。

(1) 「学びに引き込む課題の設定」については、

- ・ 1時間目に「故郷」を読み、その内容や表現について批評するという単元の学習のゴールと学習の進め方について提示し、見通しをもたせる。
- ・ 既習事項、単元の学習のゴールについて見通したものを補助黒板に提示し、課題を視覚的に意識しながら学習できるようにする。
- ・ 毎時間の導入時に「めあて」を確認するために板書したりワークシートに書かせたりすることで、「本時で何を学習しているのか」を理解して学習が進められるようにする。
- ・ 机間指導で、生徒の様子を観察し「めあて」や学習内容を理解して学習に取り組んでいるか確認し、必要に応じて声がけをしたり、付箋を活用してアドバイスや添削を行うことで意欲的に学習に取り組めるようにする。

(2) 「学びを導く指導」については、

- ・ 現在と思い出の世界の情景描写や心情描写の違いについて理解の一助とするため、場面設定については全体で確認し、教科書やワークシートに書きこませる。
- ・ 登場人物の心情を捉えたり、社会のあり方や人間の生き方についての考えを深めさせたりするため、教科書に線を引かせたり、自分の考えをワークシートや付箋などに書かせたりした上で、小グループやペアでホワイトボードなどに分類してまとめるという交流活動を取り入れ、それを全体で共有し読みを深めさせる。
- ・ 読み取らせたいポイントについては、必要に応じて学習プリントを使用して確認したり、補助黒板などに提示したりしながら基礎基本の定着を図る。

6. 研究テーマとの関わり

<研究テーマ>

「言葉に込められた意図や思いにこだわりをもち、考えを伝え合う指導の工夫」
～付けたい力を明確にした“単元を貫く言語活動”を通して～

(1) 考えを伝え合う指導の工夫について

登場人物の心情を捉えたり、社会のあり方や人間の生き方についての考えを深めさせたりするため、教科書に線を引かせる、自分の考えをワークシートなどに書かせるその後、小グループやペアでの活動、全体での共有化という段階的な学習の進め方を取りながら、抵抗感なく考えを伝え合えるような手立てをとる。

(2) 単元を貫く言語活動について

本単元全体を貫く言語活動として、言語活動例(2)ア「物語や小説などを読んで批評すること」を仕組む。「故郷」の内容や表現の魅力を伝えるという単元のゴールを学習の導入段階で明確に示すことで、作品の展開や登場人物の生き方、表現について読む視点を持たせることができると考える。その視点に沿って、主体的に作品を読ませるこ

とで読む力の育成を図りたい。

7. 指導計画(8時間扱い、本時 7/8)

第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・内容、構成や展開、表現の工夫に着目して「故郷」の批評文を書くことへの目的意識をもたせ、単元を通しての学習に見通しをもつ。 ・作者、時代背景について理解し、作品を通読してあらすじをつかみ、新出漢字や語句について調べる。
第二次	<ul style="list-style-type: none"> ・情景描写に着目し、それぞれの場面から登場人物の関係や人物像、心情を読み取る。 ・作品の背景にある社会状況をとらえ、主人公とレントウの間に隔たりができた原因について考える。 ・最終場面から、主人公の思いを読み取り、作品に込められた作者の思いを考える。
第三次 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫をとらえ、その効果について考える。 ・登場人物と主題との関わり、構成や展開、表現の仕方などに着目して読んだ「故郷」の魅力を伝える批評文を書く。 ・仲間の書いた批評文を読み合い、工夫やものの見方で参考になる所を話し合ったり、分析の観点や評価の仕方を比べ、どのような違いがあるか考える。

8. 本時の指導

(1) 題材 「故郷」を読み、その魅力を伝えよう ～批評文を書く～

(2) 目標

- ① 作品の内容や表現から読み取ったことを踏まえ、人間と社会との関わりについて関心を持ち、自分の考えを深めようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- ② 登場人物と主題との関わり、文章の構成や展開、表現の仕方などに着目して読んだ自分の考えをまとめ、「故郷」の魅力を伝える批評文を書くことができる。(書くこと)

(3) 学習過程

過程	学習活動	教師の働きかけ (◎主発問、○発問、△指示・説明 ●予想される生徒の反応)	・指導上の留意点 ■評価規準 (評価方法)
導入 5分	1. 課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の確認をする。 ・本時の課題、授業の流れを確認する。 <課題> 「故郷」の魅力を伝える批評文を書こう。	<ul style="list-style-type: none"> ・補助黒板を使い、時代背景や登場人物、作者の思いに触れながら、課題をつかませる。
展開	2. モデル文を読み、批評文完成へのイメージを持つ。	△批評文に必要な要素や書き方のイメージをつかもう。 <批評文に必要な要素・書き方> <ul style="list-style-type: none"> ・現状(事実)を捉える「〇〇は〇〇である。」 ・評価すべき点(価値や意味)を見出す「〇〇は〇〇という点がよい。魅力だ。」 ・評価できない点(問題点など)を挙げる「〇〇の 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の書いたモデル文や教科書の例文を提示し、書き方や出来上がりのイメージを持たせる。 ・取り上げた事柄を分析するポイントをモデル文や例文で確認する。

<p>4 0 分</p>	<p>3. 学習したワークシートや教科書を読み直して、情報を集め、整理する。</p> <p>4. 論理の展開や表現を考えて、下書きをする。</p> <p>5. 下書きを推敲し、文章にまとめる。</p>	<p>点で気になること・問題がある」 ・まとめ「〇〇という点は評価できるが、〇〇という点は改善すべきだ。そのため、〇〇することが必要だ。」</p> <p>○今まで学習したことや教科書を読み直し、情報を集めたり、整理したりしよう。 ●時代背景について、教科書や便覧などを読みながら情報を取捨選択している。 ●登場人物の心情について、会話表現や情景描写、行動描写から読み取ろうとしている。 ●場面構成について、現在や回想場面の違いに着目しながら読み取ろうとしている。 ●いろいろな状況の中で生きる人間と社会との関わりについて関心を持ち、読みを深めようとしている。 ●評価すべき（価値や意味を見出す）点や評価できない点などに分けたりしながら、ワークシートにまとめている。 ●自分の考えを支えるのにふさわしいか、文章をしっかり読み、吟味して引用している。</p> <p>◎整理した情報をもとに、「故郷」の魅力を伝える批評文の下書きをしよう。 ●「故郷」は長い間読み継がれてきている作品で、時代背景や作者の経験を踏まえて書かれている。 ●「故郷」の場面構成は、現在と回想に分かれている点が魅力だ。 ●登場人物の行動描写、会話表現などから人物像をつかめることが出来る点が魅力だ。 ●情景描写から、人物の心情を考えることが出来る点が魅力だ。</p> <p>△下書きを推敲し、文章にまとめよう。 <推敲のポイント> ・意見や根拠についての部分で、分かりにくい伝わらない部分はないか。 ・主観だけで書かれている部分はないか。 ・引用が、意見を支えるものとして適切に使われているか。</p>	<p>・上記のポイントに沿って、情報を集めたり整理できたりしているか、机間指導をしながらみる。 ・学習状況に躓きのある生徒には、ワークシートや付箋を活用し、必要に応じアドバイスや添削を行うようにする。 ■文章内容や表現から読み取り、人間と社会との関わりについて関心を持ち、自分の考えを深めようとしている。(ワークシートへの記入内容・取り組みの様子の観察)</p> <p>・「書き出し」や「結び」「構成」について、モデル文や教科書の例文を参考にさせる。 ・論の展開については、批評の中心となる内容を短く書き出させ伝えたいことを明確にさせる。</p> <p>・推敲のポイントに沿って、文章をまとめているかみとる。 ・必要に応じて、ペアやグループでの活動を取り入れ、下書きを読み合い、推敲のポイントを指摘させる。 ■登場人物と主題との関わり、文章の構成や展開、</p>
----------------------	--	---	---

			表現の仕方などに着目して読み、自分の考えをまとめ、「故郷」の魅力を伝える批評文を書いている。(ワークシートへの記入状況・取り組みの様子を観察)
まとめ 5分	6. 次時の学習 課題を確認する。	・ 次の時間に、仲間の書いた批評文を読み合い、参考になる所を話し合ったり、自分の批評文と比べて、どのような違いがあるか考えることを伝える。	・

第4学年 国語科学習指導案

平成27年 7月24日(金)

指導者 梅津幸太

1. 単元名 組み立てを考えて書こう「自分の考えをつたえるには」 ～討論会をしよう～

2. 単元目標

◎ 自分の意見や立場をはっきりさせ、考えを分かりやすく話したり、自分の考えと比べながら聞いたりして、伝え合うことの楽しさや多様な考えを知る楽しさに気付くことができる。

○ 討論会の進行方法を理解し、自分の考えや根拠をはっきりさせて討論会に参加することができる。(話すこと・聞くこと)

○ 話し手の主張を、その理由を考えながら聞き、自分の考えと比べることができる。

(話すこと・聞くこと)

3. 教材について

本単元は、組み立てを考えて書こう「自分の考えをつたえるには」の学習後に実施する。学習課題として「一生住むなら都会がいい/いなかがいい」のどちらかを選び、頭括型か双括型を選んで自分の考えを書いた。段落を意識して理由や事例を挙げながら書くことができた。その後に討論会を仕組み、①結論を言ってその理由や事例を挙げる、②相手への質問や意見を言う、③質問や意見への反論と最後の主張を述べる、以上のような形式で進めることで、動きのある双括型のまとめ方ができるのではないかと考えた。

本単元では、〇〇派、△△派、審判の3グループに分かれるが、その都度教師による意図的グルーピングとしてそれぞれの立場を必ず経験させるようにする。また、どちらの立場でも意見を持てるように事前にテーマを知らせておくことで、理由や事例を集めさせるとともに、広い視野で考えることができるようにする。

自分の考えを聞き手に納得してもらうように話すことや、異なった意見を自分の考えと比べながら聞くこと、質疑応答することで互いの意見を強めたり修正したりすることは、国語科だけでなく、すべての学習場面で必要である。この学習を通して、自分の考えの良さに改めて気づいたり、自分とは異なった意見を聞き視野を広げたりするといった、伝え合うことの楽しさや多様な考えを知る楽しさに気づかせたい。テーマに対する主張を相手に分かりやすく、理由や根拠を挙げながら話したり、相手の意見を自分の考えと比べながら聞いたりしながら、だれもが積極的に話し合いに参加できる学習活動が展開していくことを期待している。

4. 児童について(男子8名 女子14名 計22名)

児童はすでにこれまでの学習で、よりよい話し合いの仕方について考え、学級全体で話し合っ
て考えをまとめる言語活動を経験している。「よりよい話し合いをしよう」では、話し合いで困った経験を振り返り、その原因を探って次に生かす方法を考え、実際に話し合いで確かめることをしてきた。司会、参加者の役割と意見を出すことに重点を置いて取り組んだ。

ペアで話すこと、グループで話すことのよさは実感しているが、みんなの前で話す場面では、緊張や自信のなさから苦手意識を持っている児童も多い。こうした実態より、今までに経験したことのない討論会を通して、話し合いに主体的に参加する楽しさを味わわせていきたいと考えている。反対の立場の相手に対して説得力のある発言ができる力、相手の意図を考えながら聞く力を育てたいと考えている。

この単元をきっかけに相手の意図を理解し、自分の考えとの違いに気づいたり、自分の考えに

つなげたりして聞く能力を育て、自分達の意見を分類、集約、修正、強調して伝える話し合いができようにしていきたいと考えている。

5. 指導にあたって

これまで経験したことのない「討論会（ディベート）」という初めての活動であるので、児童にとって興味のあるものをテーマとし、話したり考えたりしやすいようにしていきたい。どちらの立場でも理由や根拠が持て、筋の通った主張ができそうな単純なテーマを設定する。また、討論会ではグループで話し合う時間を設けて役割を確認し、それぞれの場面で多くの児童に発言する機会ができるように努めていく。

相手意識や目的意識を持って話したり聞いたりできるようにするために、自分たちの考えの根拠となる例を挙げて意見を述べさせたり、聞く時にはそういった話し手の話し方を意識したりして討論会に参加させたい。合わせて、司会の進め方と審判の仕方も学習の一つとし、進行の手順を参考にしてできるだけ討論会がスムーズに進められるようにするとともに、両派の主張の根拠、質疑応答から、勝敗を判断できるようにしたい。

1～3時は、どの役割へも教師がサポートし、討論会に慣れさせるようにする。サポートの度合いを徐々に減らしていき、4時では自分達で進めることを目標にする。

6. 指導計画（4時間扱い 本時4/4）

時間	学習活動	評価
1	1. 討論会（ディベート）について知り、討論会を試みる。 ・「一生住むなら都会がいい/いなかがいい」のテーマで、自分の書いた意見文をもとに、討論会を行う。 ①自分の立場をはっきりさせて、話し合わせる。相手の意図を聞きとらせる。 ②討論会シートの使い方、司会・審判の仕方を知る。	・討論会に対して興味を持ち、積極的に参加しようとしているか。 (国語への関心・意欲・態度)
	○討論会のテーマを知らせ、両方の立場での理由や事例を書いてまとめておく。 ☆ドラえもんはいた方がいい/いないほうがいい ☆宿題はあった方がいい/ないほうがいい ☆学校のお昼は給食がいい/弁当がいい	
2	2. 討論会を重ね、○○派、△△派、審判の役割に慣れる。 ・「ドラえもんはいた方がいい/いないほうがいい」のテーマで討論会を行う。 ①相手の主張を聞き、自分の考えと比べながら発言する。	・討論会の形式に沿って計画的に話し合うことができたか。(話すこと・聞くこと)
3	・「宿題はあった方がいい/ないほうがいい」のテーマで討論会を行う。 ①討論会シートに書き込みを行いながら、計画的に話し合う。	・シートを使って、自分達の立場の理由を明らかにし、相手の意図もメモしながら話し合いに参加することができたか。 (書くこと)

4 (本時)	<p>3. 学習のまとめとして自分達で討論会を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校のお昼は給食がいい/弁当がいい」のテーマで討論会を行う。 <p>①話し合いをもとに分担を決め、相手を説得できるような主張や質疑応答をする。</p> <p>②両派の主張内容、質疑応答を聞き、勝敗を公正に判断する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力して主張を集約し、相手の主張をふまえながら自分達の主張を伝えることができる。 (話すこと・聞くこと) ・両派の主張の根拠、質疑応答から、勝敗を判断できる。 (話すこと・聞くこと)
-----------	---	---

7. 本時の指導

(1) 目標

- ・協力して主張を集約し、相手の主張を受けて修正、強化しながら自分達の主張を伝えることができる。 (話すこと・聞くこと)
- ・両派の主張の根拠、質疑応答から、勝敗を判断することができる。 (話すこと・聞くこと)

(2) 指導過程

時間	学習内容と主な発問 (○) 指示 (□) 児童の反応 (・)	指導上の留意点 (△) 評価 (◎)
5分	<p>1. 本時のめあてを確認し、前時の学習を想起する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見をよく聞いて、自分達の主張を組み立てて伝えよう。 ・2つの主張を聞き比べ、勝敗を決めよう。 </div> <p>○「トークバトル」では、メモに頼らずその場で考えたことも言いましょう。</p> <p>○足りないと思った時は、付け足しの意見も言いましょう。</p>	<p>△前回までとの変更点で、途中で「トークバトル」をはさむことになったことを確認する。</p>
7分 3分 × 2	<p>2. 「学校のお昼は給食がいい/弁当がいい」というテーマで討論会を始める。</p> <p>①作戦タイム1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これが1番の理由だね。 ・ぼくはこれを言うよ。 ・○○さんの理由は最後に持っていこう。 <p>②初めの主張</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちは「給食がいい」と思います。なぜなら…。 ・それに、…。 ・その他にも…。 (弁当派も同様) 	<p>△審判の児童と、どのような理由が出されるか予想し、それ以外の理由に注目するようにさせる。</p> <p>△両派、司会・審判とも、討論会シートにメモを取りながら話し合いに参加させる。</p> <p>△書くことばかりに気を取られないようにさせる。</p>
5分	<p>③作戦タイム2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あの理由にはこんな質問をしよう。 ・こんな質問が来そうだから、こう答えていいかな？ 	<p>△ここまでのところでどちらが優勢か、司会・審判グループの考えを確認しておく。</p>
4分 × 2	<p>④トークバトル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○という理由がありましたが、△△の方がいい 	

4分	⑤作戦タイム③ ・質問にうまく答えられなかったところを、ちゃんとまとめて言おう。	
2分 ×2	⑥最後の主張（代表） ・～このような理由から、わたしたちは「弁当がいい」と思います。（給食派も同様）	◎協力して主張を集約し、相手の主張をふまえながら自分達の主張を伝えることができたか。
3分	⑦判定 ・弁当派のあの質問がすどかったぞ。 ・給食派はよく答えていたね。 ・～で〇〇派の勝ちです。	◎両派の主張の根拠、質疑応答から、勝敗を判断することができたか。
3分	3. 本時の振り返りをする。 □討論会シートの「今日の反省」を書きましよう。	△振り返りと自己評価の2点を記入させる。

★ 討論会をしよう

1. 作戦タイム 7分
2. 初めの主張 3分×2
3. 作戦タイム 5分
4. トークバトル 4分×2
5. 作戦タイム 3 4分
6. 最後の主張(代表)
7. 判定



討論会をしよう (審判用) 名前 _____

0今日のテーマ: 学校のお昼は給食がいいか、弁当がいいか

べんとう 派	給食 派
「なるほど」が主観・ちょうしさんがたいへん ・ちよとじいりょう ・お家の人の愛おしさを感じている ・作るべん強くなる ・はやおきのしゅうかんがつか ・夜のうちに作りおき ・好きな物がたべられてたのしい ・争つた、でもうちはいい ・しんびがかんたん	・バランスよくたべられる ・苦手な物を食べられる ・べんとうは、あそなたがたべたべん ・ごちそうたりするしぐさやぐちがた ・作るのがたいへん ・ゴミが出る ・しんせんな物がたべられる ・おかわりできる
この反論は、いいところをついている ・バランスよくつくる ・苦手な物はこの味の味に ・ぐちやくちで、もも味はかわらない ・入れものに入る ・給食でもゴミは出る	・味がかあってしまう ・ソースなどであじがつかある ・おべんとうだと、ぼしたらたべたべん ・おかずを作っていたらあじがたべたべん ・メニューをたべたいへん
反論によく答えた！ ・4年生のうちにおぼろ ・てつたつてもどう ・おやどつたつてもどう ・本を免ながさず ・どうかなど、かいてある	・6年生からでもいける ・ほうちゅうなしかあふない ・苦手な人は楽しくない ・おかわりしたいへん ・おはあふない

勝ったのは... ○ ◎ どちら?

0今日の反省

討論会をふり返って	よくできた◎ できた○ もうひとがんばり△
意見を聞きくらべては人定するのがむずかしいからです	<input type="checkbox"/> 主張をくらべて聞くことができた。 <input type="checkbox"/> それぞれの良さを見つけたことができた。 <input type="checkbox"/> 公平に判定することができた。 <input type="checkbox"/> 時間通り、討論会を進めることができた。

1 学年国語科 (国語総合 現代文) 学習指導案

日 時	平成 27 年 11 月 16 日 (月) 5 校時 50 分
学 校 名	山形県立米沢工業高等学校
学 習 者	建設環境類 1 年 1 組 3 9 名 (男子 2 7 名 女子 1 2 名)
場 所	建設環境類 1 年 1 組教室
指 導 者	教諭 玉虫 美穂子
教 科 書	新編国語総合 (大修館書店)
副 教 材	新編国語総合 学習課題ノート (大修館書店) ビジュアルカラー国語便覧 (大修館書店)
単 位 数	2 単位

1 単元名 論理をはぐくむ 「水の東西」 山崎 正和

2 単元の目標

- ① 文章を読んで、筆者の考察を読み取ることができる。 < 読む能力 >
- ② 論の展開や構成を理解し、整理することができる。 < 読む能力 >
- ③ 視野や知識を拡げ、ものの見方や考え方の多様性に興味を持つことができる。 < 関心・意欲・態度 >

3 指導にあたって

- (1) 教材観 「水」の東西 (鹿おどしと噴水) の違いを通して、日本人の伝統的な感性を考察している。文中の三つの対比的表現が筆者の思考を端的に表しており、それを追うことで思考の流れをとらえることができる。
短い文章で読みやすく、論の展開も明解で、高校入学後初めて読む評論として適切だと考える。論の展開に沿って筆者の考えを読み取ることで「読む能力」の基礎を養い、今後の学習につなげたい。また、筆者のユニークな視点に触れることで、ものの見方や考え方の多様性を実感できるのではないかと考える。
- (2) 生徒観 多くの生徒は落ち着いて学習活動に取り組んでいる。しかし、説明を開き板書をノートに写し取る段階に留まっており、発問に対して積極的に考えたり発言したりするような姿勢は見られない。正解待ち・解説待ちといった姿勢が常態化しており、能動的に学習活動に取り組む段階には至らない。
また、文章を読むことに慣れていないのか、発問に対する答えを本文中から読み取るのが困難で、直感で答えてしまう生徒も多い。
中には集中して落ち着いて学習活動に取り組むノートを取るののできない生徒もいる。
- (3) 指導観 文章を読むことに慣れていない生徒が多いので、「発問に対する答えを文章中から読み取ることができる」ということを、指導する上での一番の目標とする。「発問を意識」させる工夫をしていきたい。その上で、論の展開、内容の構成を理解し整理できるようにしたい。
まずは、長い文章を一度に読み取るのは難しいと思われるので、4 段落に分けて読んでいく。生徒が文章をよく読むよう、本文中の言葉で答えられる発問をする。発問時にはノートを取る手を止めさせ、問いに集中させる。「聞く」「考える」「書く」の切り替えを意識して活動の指示を出すようにする。
答えを板書してから、その答えがどういうことを意味しているのか、何を表しているのか等、随時指名して簡単な質問に答えさせながら読みを深めていき、前後のつながりを把握させる。
ともすれば集中力が途切れ、寝てしまったり、ノートをとらなかつたり、私語を発したりしてしまう生徒達なので、個別に声かけをしながら授業を進めていく。また、理解力も高くはないので、生徒の反応を見ながら随時補足説明をし、予定通りには進まなくとも時間をかけて読みを深めたい。また、その一助として、適切な具体例を挙げ、示していきたい。

4 指導計画 (6 時間扱い)

- 第 1 時 … 評論文の特徴を理解する。題名から、テーマを推測する。キーワードの対比的表現に注目しながら、段落分けをする。第 1 段落前半より、筆者の「鹿おどし」に対しての感想・考察をまとめ理解する。
- 第 2 時 … 第 1 段落後半では、「流れる水」と「噴き上げる水」の対比に注目させ、それぞれが「鹿おどし」と「噴水」を表していることと、それぞれの観賞点を読み取る。

- 第3時 … 第2段落より、西洋の噴水の特徴を読み取り、「時間的な水」と「空間的な水」の対比から「鹿おどし」と「噴水」それぞれの観賞法と観賞する対象をまとめる。
- 第4時 … 第3段落前半より、筆者が考える日本人が噴水を作らなかった理由を読み取る。
- 第5時 … 第3段落後半より、日本人の感性に対する筆者の考察を理解し、「見えない水」と「目に見える水」の対比がそれぞれ東西の「水」に対する感性や姿勢を表していることをまとめ理解する。さらに第4段落より、その日本人の感性を表す仕掛けが鹿おどしであることを理解する。
- 第6時 … プリントを使用し、対比的表現を軸に第1段落～4段落までそれぞれの段落の内容を振り返り、論の展開・内容の構成を整理し確認する。その上で西洋の「水」に対する感性を推測する。最後に、日本の「水」に対する感性、西洋の「水」に対する感性を文章でまとめる。(本時)

5 本時の指導

(1) 目標

- ① 対比的表現を軸に第1段落～4段落までそれぞれの段落の内容を振り返り、論の展開・内容の構成を整理し確認する。
- ② 西洋の「水」に対する感性を推測し、東西それぞれの「水」に対する感性についてまとめる。

(2) 指導過程

	* 学習活動 ○ 発問 ☆ 指示等	● 指導上の留意点 ◎ 評価(評価の方法) ◇ 支援
導入 5分	<p>* 本時の学習内容を確認する。</p> <p>☆ 教科書194ページを開きなさい。 教科書・ノート・プリントを見て、前時の内容を確認しなさい。 今日は、第3段落以降について筆者の論の展開を追いながら整理していきます。</p>	<p>● 本時の学習内容を全員で確認する。</p> <p>◎ 今日の学習活動を理解できたか。(観察)</p> <p>● 何のために整理するのか、全員で確認をする。</p>
展開 35分	<p>* 第3段落、第4段落を音読する。(指名読み)</p> <p>☆ 教科書196ページを開きなさい。音読者を指名。</p> <p>* 学習内容を整理しながら、空欄に書き込む。</p> <p>☆ 教科書・ノートを読み、学習した内容を整理しながらプリントを完成させて下さい。</p> <p>* 空欄への書き込みを全員で確認する。〈板書〉</p> <p>* 筆者の考察についてまとめる。</p> <p>○ 筆者が述べたかったことはなんだろうか、考えてみよう。 〈板書〉</p>	<p>◎ 筆者の考察や論の展開を整理できているか。(観察)</p> <p>◇ 机間巡視しながら観察・支援をする。</p> <p>◎ 適切な語句を入れることができているか。(観察・発言)</p> <p>◇ 日本人の感性が表れている例(日本庭園の写真)を提示し、理解を深める助けとする。</p>
	<p>* 西洋人の「水」に対する感性を推測する。</p> <p>○ 東西で反対の関係が成り立つとすれば、西洋人の「水」に対する感性はどのようなものだと推測できるか? 考えてみよう。</p>	<p>● 状況によっては、ペアで話し合わせる。</p> <p>◇ 西洋人の感性が表れている例(西洋庭園の写真)を提示し、理解を深める助けとする。</p>
総括 10分	<p>* 日本人と西洋人の感性についてそれぞれ文章でまとめる。</p> <p>○ 本文から日本人の「水」に対する感性、推測したことから西洋人の「水」に対する感性をまとめてみよう。</p>	<p>◎ 日本人の「感性」が理解できたか。西洋人の「感性」を推測できたか。(観察)</p>

< 研究授業時の協議から >

- 良かった点
 - ・前時までの過程も含め、日頃の指導（ノート作り等）
 - ・生徒が理解しやすい言葉の置き換え
 - ・発問とリード（信頼）
 - ・机間巡視と声かけや支援
- 改善策
 - ・ICTの活用
 - ・考える時間の確保
 - ・話し合う時間の確保
 - ・思考マップと別の思考用プリント

< 指導案の修正点 >

- ① 1時間の中に内容を詰め込み過ぎたため指導案通り学習活動が終わらず、また考える時間も十分に確保できなかったため、-----部分で2時間に分けた。
- ② 「文章にまとめる際にキーワードを提示する」という改善策をヒントに、生徒からキーワードを挙げさせ、そのキーワードを使用して文章を書かせるようにした。

< 次時の指導案（-----部分以降） >

	* 学習活動 ○ 発問 ☆ 指示等	● 指導上の留意点 ◎ 評価（評価の方法） ◇ 支援
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> * 本時の学習内容を確認する。 ☆ 前回まとめた日本人の感性に対して異なる西洋人の感性をまとめます。 * 前時の学習内容を確認する。 ☆ プリントを見て、前時の内容を確認しなさい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の学習内容を全員で確認する。 ◎ 今日の学習活動を理解できたか。（観察） ● 前時でまとめた日本人の感性について思い出せたか確認する。 ◇ 日本人の感性が表れている例（日本庭園の写真）を再度提示し、理解を深める助けとする。
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> * 西洋人の「水」に対する感性を推測する。 ○ 東西で反対の関係が成り立つとすれば、西洋人の「水」に対する感性はどのようなものだと推測できるか？考えてみよう。 * 日本人・西洋人、それぞれの「水」に対する感性を表すキーワードをピックアップする。 * 日本人と西洋人の感性についてそれぞれ文章でまとめる。 ○ 本文から日本人の「水」に対する感性、推測したことから西洋人の「水」に対する感性をまとめてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 状況によっては、ペアで話し合わせる。 ◇ 西洋人の感性が表れている例（西洋庭園の写真）を提示し、理解を深める助けとする。 ● 板書して全員で共有する。 ◎ 日本人の「感性」が理解できたか。西洋人の「感性」を推測できたか。（観察）
総括 10分	<ul style="list-style-type: none"> * 指名発表する。（数人） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 日本人の「感性」が理解できたか。西洋人の「感性」を推測できたか。（観察）